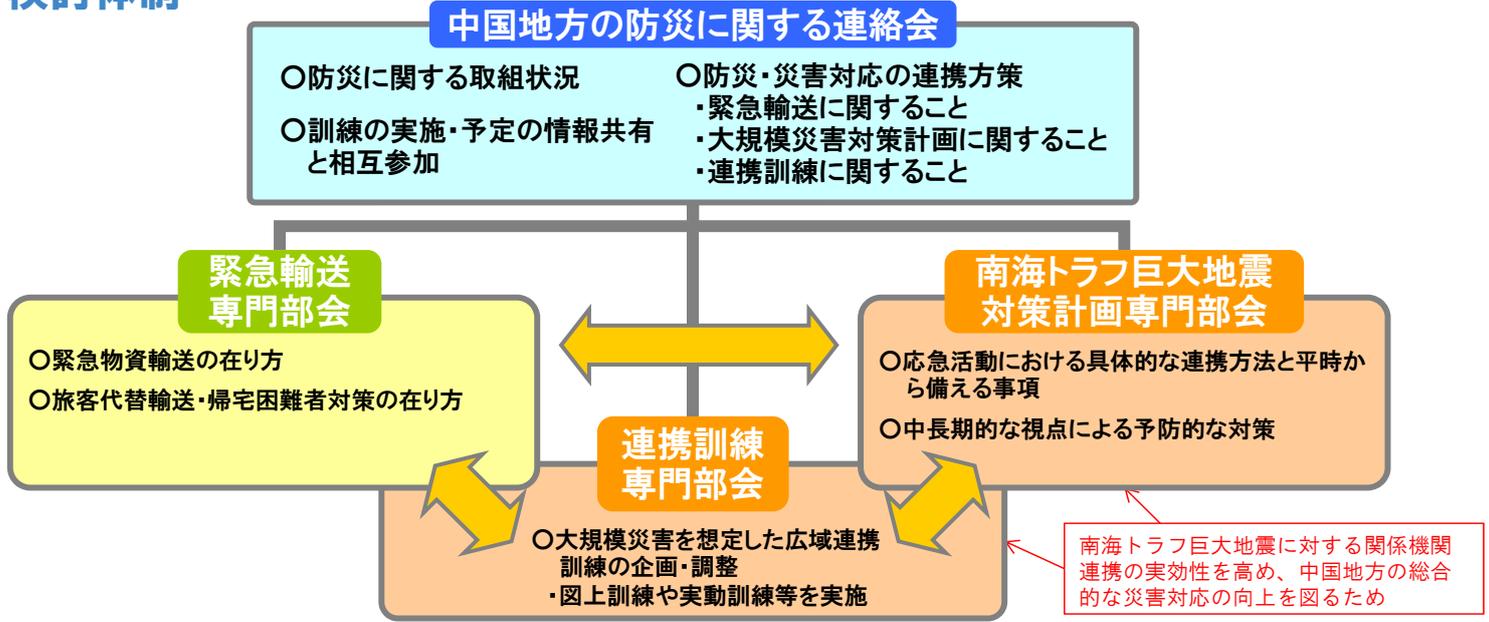


検討体制

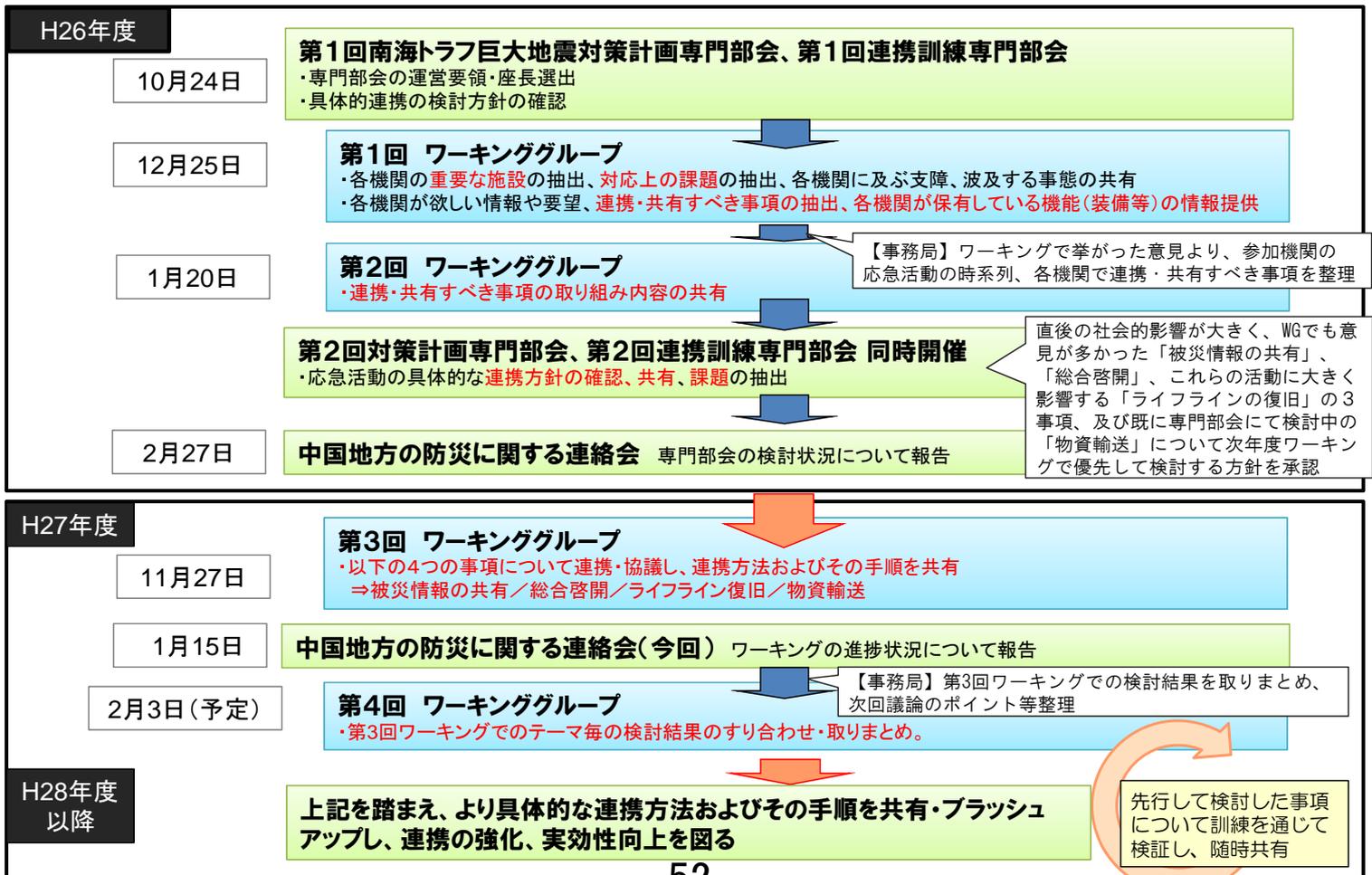


第1回 南海トラフ巨大地震対策計画専門部会、連携訓練専門部会 (平成26年10月24日設置)開催の様子



第2回 南海トラフ巨大地震対策計画専門部会、連携訓練専門部会 (平成27年2月12日)開催の様子

◇南海トラフ巨大地震対策に関する専門部会の取り組み



◇ワーキンググループの取り組み結果

◆第1回WGの実施内容 (広島市をモデルケースに実施)

8班(各班6名程度)
に分かれてグループワーク

- ①南海トラフ巨大地震時の被害想定を参加者で確認した上で、各機関の重要な施設、各機関に及ぶ支障、波及する事態を抽出・共有した。
- ②各機関が欲しい情報、連携・協議すべき事項、各機関が保有している機能(装備等)の情報を抽出・共有した。



被害想定を参加者で確認



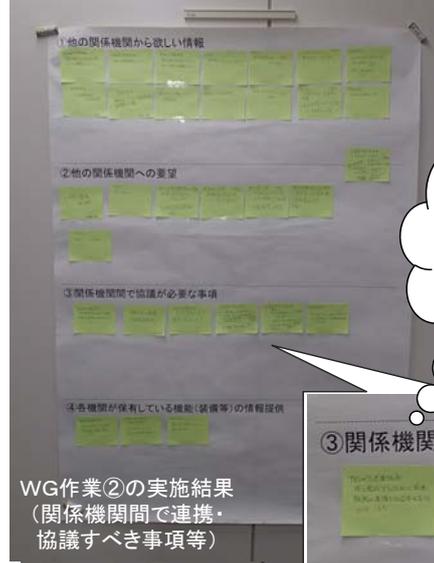
重要施設をふせんに書き、図面に貼付



重要施設や支障を各班のメンバー間共有



WG作業①の実施結果
(広島市内の被害様相図)



WG作業②の実施結果
(関係機関間で連携・協議すべき事項等)

WGで出されたキーワード
「避難支援、道路啓開、航路啓開、施設復旧、広域応援、燃料、物資輸送、通信(電気、ガス等)、廃棄物、情報共有体制」等

③関係機関間で協議が必要な事項

第1回WGの実施状況

◇ワーキンググループの取り組み結果

◆第2回WGの実施内容 (広島市をモデルケースに実施)

8班(各班6名程度)
に分かれてグループワーク

- ①第1回WGの整理結果の共有
⇒関係機関で連携・協議すべき7つの事項を抽出し、共有
- ②連携・共有すべき事項の取り組み内容の共有
⇒第1回WGで挙げた「連携・共有すべき事項」より、『被災情報の共有』『総合啓開』『ライフラインの復旧』の3つを優先して着手すべき事項として選定し、具体的な進め方を協議(各事項の「実施機関」、「具体的な検討・取り組み事項」、「取り組み方」等)

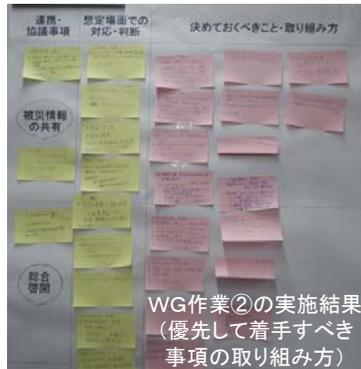
連携・協議すべき
7つの事項

1. 避難支援
2. 被災情報の共有
3. 総合啓開
4. 広域応援
5. 物資輸送
6. ライフライン復旧
7. 地域の復旧



事前に決めることや
取り組み方を、ふせんに
書き、各班で共有

第2回WGの実施状況



WG作業②の実施結果
(優先して着手すべき
事項の取り組み方)



各班より進め方等
の協議結果を発表



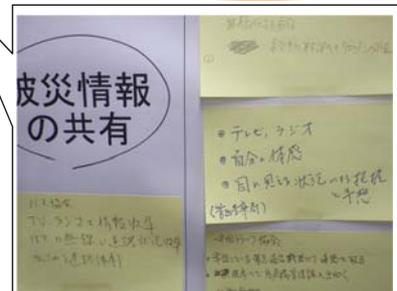
▶ 次年度に優先して着手する3つの事項『①被災情報の共有』、『②総合啓開』、『③ライフラインの復旧』を選定し、検討中の『④物資輸送』を加えて具体的な進め方を協議した



第2回地域対策計画専門部会、第2回連携訓練専門部会にて結果報告



▶ 得られたWGの意見を基に、事務局にて具体的な進め方と全体スケジュールを検討提案し、第2回専門部会にて承認を得た



◆ 第3回WGの実施内容

- ▶ 南海トラフ巨大地震対策計画専門部会のワーキンググループを開催
- ▶ 災害時応急活動に関連する機関毎に6グループに分かれてグループワークを実施

- ・平成27年11月27（金）開催
- ・35機関70名参加
- ・広島市周辺をモデルケースに実施

- ① 共通テーマ「被災情報の共有」： 応急活動に必要な情報を抽出する前提として、災害発生時の各機関の応急活動の内容と時期をグループ毎に整理した。
- ② 個別テーマ「総合啓開（陸上、海上）」： 十分な情報が得られない初動期を想定し、道路・航路啓開選定時の基本的考え方、および、道路・航路啓開の重要度の高いエリア・港の意見交換を行った。
- ③ 個別テーマ「ライフラインの復旧」： 広島市周辺の被害想定をもとに、各ライフライン機関の施設復旧方針・手順をグループ内で共有したうえで、相互連携について意見交換を行った。
- ④ 個別テーマ「物資輸送」： 緊急物資輸送の重要項目の考え方について整理し、意見交換を行った。



◎今年度第4回ワーキンググループ（2/3開催予定）にて、6つのグループ間での連携について引き続き検討する。

◇ワーキンググループの実施状況

◆ 第4回WGの実施予定

- ▶ 共通テーマ「被災情報の共有」： グループ毎の検討結果を全体で調整し、応急活動内容とその時期をとりまとめ。
- ▶ 個別テーマ「総合啓開、ライフラインの復旧」： テーマ毎の検討結果のすり合わせ・とりまとめ。重要エリアへの基本啓開ルートを検討。

【第3回ワーキンググループ】（H27.11.27）

◆ 共通テーマ

被災情報の共有

- ◇ 関連する機関毎にグループに分かれ、大規模災害時に実施する応急活動の内容と時期を整理。
- ⇒【課題】 グループ間の調整、全体情報共有が必要。

◆ 個別テーマ

総合啓開（陸上）

- ◇ 道路啓開の基本的考え方、および、重要度の高いエリアについてグループ討議。
- ⇒【課題】 道路啓開に関する基本方針のまとめ、航路啓開とのすり合わせが必要。

総合啓開（海上）

- ◇ 航路啓開の基本的考え方、および、重要度の高いエリアについてグループ討議。
- ⇒【課題】 航路啓開に関する基本方針のまとめ、道路啓開とのすり合わせが必要。

ライフラインの復旧

- ◇ 各ライフライン機関の施設復旧方針・手順の共有、相互連携の可能性についてグループ討議。
- ⇒【課題】 ライフライン復旧に関する基本方針のまとめ、重要エリアの具体的復旧方法の検討。

緊急輸送

- ◇ 緊急物資輸送の重要項目の具体的な作業についての討議
- ⇒【課題】 ・物流拠点における作業体制の確立
・事前の迂回ルート設定

【第3回ワーキンググループで明らかとなったこと】

- 早急に被災状況を把握することがその後の体制を構築する上で重要。
- 多くの機関が道路情報の入手を重要視。（道路の通行の可否、道路啓開の状況等）
- 多くの機関が津波到達時刻までの災害対応について課題認識。
- 燃料調達方法の検討と情報共有が必要。
- 道路啓開と航路啓開との情報共有が必要。
- エネルギーグループ、通信グループから復旧方法の説明があったが、その情報は他機関にも有効。

【WG運営側の課題】

- 被災想定にあいまいな点があり、それを埋めるために時間を要した。
- 被災想定に基づく時間設定がグループ毎で不整合。
- 類似機関を集めてグループとしたが、必ずしもグループ分けが適切ではない場合もあった。
- 参加機関が多岐にわたり同じテーブルで議論するためには進め方に工夫が必要

【第4回ワーキンググループ】（H28.2.3）

◆ 共通テーマ

被災情報の共有

- ◇ グループ間で一致しない応急活動項目や活動時期について、グループ討議に基づき調整する。
- ◇ 全機関で応急活動の内容と時期を共有する。

◆ 個別テーマ

総合啓開（陸上）

- ◇ 道路啓開に関する基本方針のまとめ。
- ◇ 航路啓開とのすり合わせ。
- ◇ 重要エリアへ到達する基本ルートの検討。

総合啓開（海上）

- ◇ 航路啓開に関する基本方針のまとめ。
- ◇ 道路啓開とのすり合わせ。
- ◇ 重要エリアへ到達する基本ルートの検討。

ライフラインの復旧

- ◇ ライフライン復旧に関する基本方針のまとめ。
- ◇ 全関係機関での情報共有。
- ◇ 重要エリアへの復旧方法の検討。
- ※ 燃料調達に留意した復旧検討を行う。

緊急輸送

- ◇ 緊急物資輸送に関する重要項目のまとめ
- ◇ 各作業の再確認と関係機関での連携確認
- ◇ 総合啓開情報等との情報共有
- ※ 避難場所等を考慮した応急活動とする。

- ※ 想定条件を明確に示す。
- ※ グループ分けを工夫し、再設定する。

※グループ間の調整全体情報共有